

平成21年度 学校評価総括表

1 学校教育目標		
一人ひとりが生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育み、個性豊かで心身ともに健やかに郷土愛あふれる生徒を育成する。		
2 学校経営ビジョン		
【めざす学校像】 ①特色ある学校教育の樹立 ②伝統を生かした創造と活力ある学校づくり ③心豊かでたくましい生徒の育成	【めざす生徒像】 ①品位のある生徒 ②礼儀正しい生徒 ③根気強く、自分に負けない生徒 ④公共物を大切にする生徒 ⑤相手の立場や気持ちを考えて行動できる生徒	【校訓】 (形を正す) (あいさつをする) (負けじ魂をもつ) (ものを大切にする) (思いやりの心を持つ)
【めざす教師像】 ①研修に励み、心豊かで情熱あふれる教師 ②常に生徒を中心に考え、優しさと厳しさを備えた教師 ③心身障害者に対する理解と認識を深め、人権を大切にする教師 ④教育公務員としての自覚を持ち、使命感に燃え、保護者や地域社会より信頼される教師 ⑤健康管理に努め、心身共に健康で明るい教師 ⑥出合いを大切にし、よき人間関係の中で協力し合って教育目標達成に努力する教師		
3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題	
○ 特色ある学校教育の樹立 ○ 学力の向上と自己教育力の育成 ○ 道徳教育及び生徒指導の徹底 ○ 人権・同和教育の充実 ○ 進路指導の充実 ○ 特別支援教育の充実 ○ 国際化・情報化に対応した教育の推進 ○ 健康教育・安全教育の推進 ○ 環境教育の推進 ○ 教職員の資質向上	〔成果〕 A評価を得た項目については、平成19年度は18項目中13項目であったものが、平成20年度はすべてA評価であった。また、平成19年度及び平成18年度と評価が比較できる項目においては、すべての項目において平成20年度の評価が上回った。これらのことは、緊急連絡用のメーリングシステム「はなまる連絡帳」による緊急連絡や学校情報の提供、さらに校長便りやホームページをはじめとする広報活動や生徒の実情を理解して上での学力向上の取り組み、健康教育の推進、職場体験学習の実施や高校説明会等の教育活動の生徒や保護者から理解され、信頼される学校づくりにつながっているものと考えられる。 〔課題〕 「学校経営方針」及び「特別支援教育」の項目が低かった。「学校経営方針」については、平成21年度は本校案内パンフレット作成し、各家庭及び地域に配布するとともに、具体的な取り組みを校長だより、学級便り等で引き続き、広報していく予定である。また、特別支援教育においても、校内支援体制を確立させ、別室登校等、支援を必要とする生徒達に関する個別の教育支援計画を作成する。また、特別支援教育だより・教育相談だよりを発行するなどして、引き続き生徒及び保護者への啓発に努めたい。	

5 総括表		※a評価の%数値は、好ましい評価の計				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校運営 (● 県共通評価項目 ◎伊万里市 ○伊万里中学校)	●学校経営方針	学校教育目標の具現化	学校目標を明らかにし、目指す学校像をはっきりさせる。	本校案内パンフレットを作成し、各家庭及び地域に配布するとともに、具体的な取り組みを校長便り、学級便り等で引き続き広報していく。	A	アンケートは、82.7%のa評価 (前年度より2.2%増加、一昨年度より8.1%増加) 学校目標を具現化するため、教室掲示等を行うとともに、PTA総会をはじめ校長だよりや学級だよりで周知するようにした。また、学校ホームページにも掲載し、学校の情報公開を行ってきた。引き続き、学校の経営目標の周知を図り、理解と協力を得られるよう努めたい。学校案内パンフレットは昨年度末に作成し、3月末及び4月初めに各家庭や地域に配布した。
		本年度の重点目標の周知	教職員、生徒に周知し、すべての保護者に周知できるよう努力する。	校長だよりや学校だより等で具体的な取組を広報する。また、職員会議や全校集会で職員や生徒に説明を行い、保護者には家庭訪問や授業参観等を通して周知するよう職員に伝える。	A	
	◎危機管理体制の整備	危機管理体制の整備 情報提供・発信	危機管理マニュアルを更新する。	危機管理マニュアルを見直し、実態に合わせて修正を行う。	A	アンケートは、87.4%のa評価 (前年度より9.4%減少、一昨年度より8.5%増加) 危機管理マニュアルを見直すとともに、緊急連絡用のメーリングシステム「はなまる連絡帳」の加入率は前年度と同様の80%を超えた。引き続き、職員及び保護者の危機管理意識を高め、事故防止を図るよう努めていきたい。
			はなまる連絡帳の加入率を80%以上にする。	緊急メーリングを生かした情報網を作成するために積極的に呼びかける。	A	
	◎開かれた学校づくり	学校ホームページの開設・充実 学校だより・保護者向けプリントの充実	ホームページを充実させる。	ホームページ作成委員会を立ち上げる。ホームページは頻繁に更新し、情報を発信する。	B	アンケートは、78.7%のa評価 (前年度より12.1%減少、一昨年度より6.1%減少) ホームページの更新は月1回の更新にとどまった。担当者が替わり、充分な対応ができていなかった。来年度は、更新の回数を増やし、学校だより、学級だより等による情報発信、学校ホームページにより最新の情報提供に努めたい。
			定期的な学校便りのほか、保護者向けプリントを配布する。	学校の取組や生徒の活動の様子を伝えていく。	A	
◎教職員の資質向上	授業研究	杵西型授業の実践研究を行う。	杵西型授業を実践し、授業研究会を実施し、教員の資質向上を図る。	A	アンケートは、82.8%のa評価 (前年度より6.8%減少、一昨年度より3.4%増加) 本年度は、校内研究に杵西型授業の研究を取り入れ、指導力の向上を図るようにした。道徳においても、ふれあい道徳の授業などを通して、互いの資質を高め合う雰囲気も出ている。また、特別活動、総合的な学習のほか、特別支援教育においても外部講師を招聘する等、研修を深めた。	

教育活動 (●県共通評価項目)	○教育課程	授業時間の確保	教師の出張等による生徒の自習をなくし、標準授業時数を確保する。	出張の場合は振り替えをする。緊急の場合、空き時間の教師で対応する。	A	自習時間をなくし、標準時間数の確保に努めた。今後も自習時間をなくすなど、学力の向上に努めたい。
		総合的な学習の時間の充実	1年農業体験学習、2年職場体験学習、3年わくわく映像塾等の体験活動に積極的に取り組む。	地域のゲストティーチャーを多く活用する。	A	それぞれの学習内容において、地域の人材に講師や見学の際の説明を依頼した。さらに、体験活動を多く取り入れるなど、自己の生き方を考える機会の充実を図っており、質の高いものになっている。
	●心の教育	道徳授業の充実	道徳や人権についての研修を行い、授業研究会を行う。	研究グループをつくり、自主的研修を中心に全体研修を行う。	A	アンケートは、81.1%のa評価 (前年度より6.7%減少、一昨年度より0.8%減少) 昨年度同様、道徳の授業の指導力向上に努めた。次年度もふれあい道徳で、保護者や地域に授業公開をしていきたい。
	●健康・体力づくり	立腰と食教育を通じた健康教育の推進	立腰の実施と食教育に関する健康教育を推進する。	立腰教育を本校の特色ある学校づくりに位置づける。また、食教育についての授業研究会を実施し、食教育を通じた健康教育を進める。	A	アンケートは、88.7%のa評価 (前年度より3.0%減少し、一昨年度より1.7%増加) 学習開始時の立腰指導、給食の際の食育指導、さらに生徒会健康委員会による給食指導、学力の把握に関する研究指定校事業による体育の授業の充実等、健康教育の推進ができた。
	◎進路指導、キャリア教育	進路指導の充実	各学年に応じた進路指導、キャリア体験の充実を図る。	進路指導及び総合的な学習の時間と関連させてキャリア教育の充実を図る。 1年 農業体験 2年 職場体験学習 3年 高校説明会、高校一日体験入学、わくわく映像塾	A	アンケートは、84.9%のa評価 (前年度より7.9%減少、一昨年度より2.4%減少) 1年生の体験学習をはじめとして、2年生では充実した職場体験学習や進路学習が実施できた。3年生の総合的な学習の時間のコース別による課題学習の充実や選択制による高校説明会の実施により、生徒が意欲的に参加した。
○伊万里中学校)	◎生徒指導	生徒指導の充実	全員が気になる生徒について共通理解をし、指導にあたる。	定期的な会議の他に定期的に部会をもち、指導に当たる。	B	アンケートは、74.6%のa評価 (前年度より12.6%減少、一昨年度より5.4%減少) 生徒指導主事を中心に定期的に会議をもち、気になる生徒についての情報交換と共通理解を図った。今後も共通理解のもと、保護者や地域と連携を深め、指導の充実を図ってきたい。
	●学力向上	朝読書の推進、TT、少人数授業による学習の充実、PUT(power up time)による基礎学力の向上	校内研究・研究推進委員会で具体的な取り組みを計画し、学力の向上を図る。	文部科学省研究指定の「学力の把握に関する研究指定事業」の研究推進を図り、保健体育に関する学力向上を図る。 朝読書の実施により、学習の雰囲気づくりを図る。TT授業及び少人数授業を行い、基礎基本の定着を図る。また、PUTの実施により基礎学力の向上を図る。	A	アンケートは、88.7%のa評価 (前年度より5.4%減少、一昨年度より5.7%増加) 学力の把握に関する研究指定事業により、保健体育の授業が充実した。他教科にも反映させていきたい。PUT学習の充実をはじめ、朝読書の効用、TT及び少人数指導による成果もあった。さらに、家庭学習と授業の一体化を図るとともに、学習定着のための時間の確保と指導の工夫を図りたい。
	◎特別支援教育・教育相談	特別支援教育・教育相談の推進	校内研修による特別支援教育の理解と推進を図る。	校内支援体制を確立させ、別室登校など、支援を必要とする生徒達に関する個別的教育支援計画を作成する。また、特別支援教育便り・教育相談便りを発行するなどして、引き続き生徒及び保護者の啓発に努めたい。	B	アンケートは、74.7%のa評価 (前年度より8.8%減少、一昨年度より1.7%減少) 生徒指導や教育相談との連携を図るために、校内研究により共通理解を深めた。個別的教育支援計画を昨年度以上に作成し、全職員で取り組んだ。今後も職員間の連携と保護者への啓発に力を入れ、一人一人を大切に学習支援の実践を図りたい。
特定課題 (●県共通評価項目)	◎特色ある教育活動	学力向上	平成14年度から16年度まで実施の学力向上フロンティア事業の成果を生かし、さらに研究を継続させ、研修を深める。	わかる授業の実践とPUTの実施により、基礎学力の向上を図る。	A	わかる授業について校内研修や職員会議等で、情報提供し、共通理解に努めた。PUT学習(基礎学力の定着の時間)の充実を図った。また、朝読書により朝の落ち着いた時間をつくることや2分前着席、立腰教育の推進により学習への姿勢をつくっていったことで、基礎学力の向上につながっている。今後、これらの取り組みをさらに充実させ、発展させていきたい。
	○魅力ある学校づくり(中1選択制)	不登校生徒の減少 学力向上	不登校傾向の生徒の数を前年度より少なくする。 学力評価における項目(学力向上、キャリア教育)のA評価の維持と向上	校内研究の実践研究(道徳、特別活動、学力、特別支援・教育相談) きめ細かな学習指導の実践～ ①PUT学習②中1TTの授業研究③立腰教育の推進④わかりやすい授業の研究 豊かな心を育む体験学習～1年体験学習、1年宿泊訓練 小中連携教育の推進	A	不登校傾向の生徒は5名(前年度6名)⇒個別の支援は昨年度と比べると関わりを多く持っている。しかし、不登校傾向の生徒は相変わらず多い現状である。不登校傾向になる前の取り組みについて研究を深めていくことが求められる。学力に関する項目に関しては、A評価であった。学校側の行っている学力向上についてもっとアピールすることと生徒の立場に立ったよりわかりやすい授業や学力を高める方法などを研究していく必要がある。今年度の1年生は、生活規律や規範意識に低い傾向が見られる。中1の英語・数学においては、毎時間TTを行っており、授業規律を高めるには有効な方法だった。また、全職員が1年生に関わりを持って取り組んだ。
	◎家庭教育力の向上	テレビ視聴の制限推進 伊万里っ子しぐさの徹底	計画的な家庭学習の推進 伊万里っ子しぐさについての理解を深めさせる。	家読の推進、家庭学習時間の調査 伊万里っ子しぐさの読み合わせを行う。1.9.11.26.29を重点項目として取り組む。	B	本校の生徒には、積極的な家読と家庭学習を定着させるには至っていない。引き続き、努力目標として取り組む必要がある。伊万里っ子しぐさについては、各学級で取り組んだり、発表の場を設けたりと、理解を深めるために研究に取り組んだ。小中連携においても伊万里っ子しぐさについて取り組んだ。
	◎情報教育	情報モラルの徹底	情報モラルについての危険性を理解させる。	インターネットやメールの危険性について講話をし注意を喚起する。携帯電話を「持たせない」「持ち込ませない」の徹底を図る。	A	全校生徒を対象にパソコンや携帯電話でのインターネットやメール、プロフ、学校裏サイトの危険性について講話を行った。ネット上の事件や事故を紹介し、注意喚起を行った。携帯電話を「持たせない」「持ち込ませない」の徹底は共通理解して取り組んだ。

6 総合評価

- ① 学校運営では、「開かれた学校づくり」のみB評価で、あとはA評価だった。ホームページ更新は月1回にとどまった。また、学校便りや保護者向けプリントは発行はするものの、生徒を経由し保護者に向けて確実に情報が届いていないという声も聞かれた。「学校経営方針」のアンケート評価はあがった。校訓や学習の構えは三カ条などの徹底や保護者を巻き込んだ朝のあいさつ運動等を行った。
- ② 教育活動では、昨年と変わらず充実した取り組みを行った。「生徒指導」のみB評価で、あとはA評価だった。生徒指導においては、本校には他学年や級外に要請があれば生徒指導主事を中心として動く指導体制があり、昨年以上に対応に追われた。個別的教育支援計画を立て実行した。
- ③ 特定課題では、「特別支援教育・教育相談」がB評価で、「家庭教育力の向上」のうち、家読・家庭学習の項目がB評価であった。本校においては、不登校の生徒が各学年少なからずいる。大きな課題である。家読・家庭学習については、家庭の協力を巻き込んだ取り組みが必要である。
職員においては、昨年度以上の多忙感があり、様々な取り組みを行っているのが実感なのだが、結果がそれにともなっていない。今現在の子どもが少しでも良い方向に向くように、現状に合った効果的な指導・支援の仕方の研究が望まれる。

7 次年度への課題・改善策

校内研修の見直しを行う。真面目な生徒の行為がきちんと評価される場、生徒が生き生きと活動する場などを設ける。また、来年度さらに取り組むこととして、本校の特色ある教育活動の見直し(立腰教育、読書指導の推進など)、杵型授業の見直し(学ぶ側の立場に立った研究実践)、生徒指導の研究(日常行う生徒指導の研究、生徒会活動との連携など)、道徳・特別活動・特別支援教育・教育相談の推進(学級経営と関連させた研究実践、キャリア教育の推進)、本校教育の積極的な外部への発信などに取り組んでいく。